

# 人にやさしい高度な精神医療を実践して 心あたたかな地域づくりお手伝いします



安らぎとゆとりあふれるロビー



夏まつりで盛り上がった〇×クイズ(7月)



院長 土屋 潔

1988年北海道大学医学部卒業。北大医学部付属病院精神神経科、市立室蘭総合病院、市立稚内病院の精神神経科医長を経て2001年から苫小牧緑ヶ丘病院院長。精神保健指定医。日本精神神経学会精神科専門医制度指導医。日本医師会認定産業医。医学博士。

「患者さんにやさしい病院」を理念に、その実現に向け、①患者中心主義の医療展開②質の向上③地域に根差し貢献する―を目標に掲げている。1963年6月の開院。精神科の病院としては市内2番目に古く、地域に開かれた独特の伝統と歴史をはぐくんできた。市中心部にも近い立地条件の良さと、市民の憩いの場である緑ヶ丘公園や金太郎の池、運動公園など周囲のロケーションにも恵まれている。

現施設は96年に全面改築され、ホテルを思わせるような落ち着いたたたずまいのロビーをはじめ、プライベートに配慮して個室も備えた病棟、機能回復のための訓練室(体育館)、大規模な拡張工事で一段と居住性も増すデイケアセンターなど、近代的な病院へと生まれ変わった。現在の診療科目は精神科、心療内科。いずれも豊かな経験と優れた知識・技能を持ち、患者と家族の立場に立った医師や看護師らが親身に、そして粘り強く対応する。

院内では、夏まつり、クリスマスなどの各種イベントや地元オーストラによるコンサートが

行われている。一方、地域にも積極的に出かけ、社会性も養っている。作業療法の一環として行う運動プログラムとグループ活動がそれだ。運動プログラムは院長も選手参加するソフトボール、ウォーキング、ストレッチ体操、ダイエツ指導など。グループ活動にはブドウ狩りや動物園、レストラン訪問といった楽しい企画を満喫している。

「うつ病」などの心の病を抱える人たちは多く、自殺が大きな社会問題となっている。サラリーマンの場合は「うつ病になると、何カ月間、休職して治療することになります。復職させるまでにもっていくことが大事」と土屋院長。「精神科も普通の病院と同じように安心して掛かれるような雰囲気作りに心掛けています」と目を細める。ストレス社会に生きる現代人にとって、病院スタッフは心優しい応援団なのかもしれない。

スムーズな診療を行うためには「初診の方は、事前にお電話をいただければ」と同病院では呼び掛けている。

精神科・心療内科

医療法人 大島記念会

**苫小牧緑ヶ丘病院**

苫小牧市清水町1丁目5番7号 ☎(0144)34-4761  
ホームページ <http://www.t-midorigaoka.or.jp/>

診療時間/  
月～金曜/9:00～12:00 13:30～17:00  
(受付時間は8:30～11:30 13:00～16:30)  
土曜/9:00～12:00  
(受付時間 8:30～11:30)  
休診日/日・祝日

